

議会運営委員会県外調査をふまえた検討事項について

茨城県取手市の事例を参考に検討していただいている新たな取組について、改選後の検討事項として、次のとおり方向性と課題を整理し引き継いでいきたい。

1 取組の方向性

○開かれた議会運営の実現

- ・ 県民の皆さんに、議会を身近にわかりやすく感じていただくことができ、関心の向上につながる取組
- ・ A I 等技術の発展を取り入れた取組

○独自の政策立案と提言機能の強化

- ・ 議員の側からも過去の議論を振り返り、今後の政策等に生かすことができる取組

2 内容案の検討課題

(1) インターネット中継における字幕の導入例と効果、課題

導入例	効果	課題
日程や発言している議員名など、会議の進行状況がわかる字幕を表示	発言しているのが誰か、どこまで進んでいるのか、何を採決しているか等がわかりやすくなる	発言内容を表示することは不可能
A I で文字起こしした内容をリアルタイムで字幕表示	すべての発言内容を表示することができる	誤りが多々あるため、誤解が生じる可能性がある
録画中継に会議録の発言内容を字幕にしたものを話すタイミングに合わせて字幕表示	正確な発言内容を、表情等とともに見ることができる	会議録の完成までに時間がかかる。動画に合わせて字幕を入れる作業が必要で、かなりの手間がかかる
専門の業者に委託し、リアルタイムで人手による反訳を行い、中継画面に字幕を合成して表示	ほぼ正確な内容が表示される	少しのタイムラグが発生する。費用が高い

(2) A I の活用

①視覚化システムについて

取手市議会が使用している視覚化システムがいつ製品化されるかは現段階では未定

②A I の利点と課題

A I は学習した内容は瞬時に分析等ができるものの、言葉の意味や概念を解釈できるわけではない。独自の方法でA I を活用しようとする場合には、委託または企業や学校等との連携が必要になる。